

にわたる立派な立面図群になったりしました。また、地元の人たちのヒアリングの場にも同席させてもらったり、豊かな資源を使った食事にもありつくことができたりしました。

このようなフィールドワークを通じて、地域と向き合うための方法を学びました。

## 2. 地域から学ぶ

地井ゼミでは、それぞれの地域で目の前に起きていることを感じ取ること、そこにある重要な意味や視点などを見つけたり、それらを達成するために必要な以下のような実践的な視点と方法論について学びを深めました。

### (1) 不連続的統一性

この考え方は、地井先生の恩師である吉阪隆正先生たちの考え方と伺っています。個々はそれぞれに個性を持ちつつも、それらが全体となったときにも統一性をもって輝くという考え方で、建築はもちろん都市計画や社会のあり方を示しているといえます。例えば、ヨーロッパの街並みを美しく感じたりするのは、建物はそれぞれ個性的であっても、建物やその周りの環境に一定の様式があり、大きさも似た感じで、これらが連続していることによって感じられるという理由があるのではないのでしょうか。この統一性を、デザインや暮らしぶりといったものを手掛かりに見つけ、共有することによって、自分たちの的特性や個性として認識し、多くの人たちの共感を呼ぶものになっていくという考え方である。

### (2) 発見的方法

不連続だけど統一性として見えていく理由の発見に向けては、当該地域の外に身を置いて、外の世界の尺度によってデータを集めることやそれらに基づいた想像や予測を積み重ねることにより、それらを認識するのではない。まず現地に行って歩いてみる。その場に立ち尽くして目を見張り、耳を凝らすこと、心を白紙にして目の前で起

きていることをそのまま受け止めてみるのが大切だと学びました。そのためには、五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）に加えて第六感ともいう感性を磨くことが必要だと教えてもらいました。今でもついつい他の地域と比べてみたり、平均的な尺度をつかったり、なかなか実践できない自分を発見することも多いのですが。

### (3) 逆格差論

暮らしやすさは、収入が目安になるのでしょうか。収入は暮らしやすさの目安なのか。所得格差が地域の後進性として唱えられ、格差是正のために開発が押し付けられていく。問題は所得格差でなく、その使用価値の大小なのではないでしょうか。所得格差の考え方が生み出したものは、都市による地方の資源の収奪であるともいえます。この原稿をまとめるにあたって、もう半世紀も前に、所得格差に対峙する生活逆格差について学んだことを思い出しました。今でこそ、地方の生活の豊かさにあこがれて、田舎暮らしを選択する人たちが増えている状況を見るにつれて、改めて先見の明を感じています。

### (4) 大学での学びをまちづくりの現場へ

地域づくりやまちづくりにかかわる端緒について、長々と述べてきました。地井ゼミでの学びは、まちづくりに向かう姿勢や現場での考え方に関することが多く、「地域について、住民の方よりも長い時間語れるようになれ」、「君たちは、大学というところで国のお金を他の人よりも多く使ってもらっているので、もっと地域に貢献しないといけない」、「貢献の仕方は人それぞれ、知恵で、汗で、お金で、自分のできる範囲で貢献しなさい」、「地域の人に暮らしを教えてもらいなさい」など。地域づくりの現場にかかわる人たちは、なにがしのこだわりをもって地域づくりにかかわってこられています。私が今まで学んだ視点をもとに、愛媛県における地域づくりの「これまでとこれから」について事例を交えながら考察していき